



みだがはらちとうくん
弥陀ヶ原地塘群



ふくじゅそう



せば
瀬場ダム



調べて
みよう
立川の風土

守って
いこう
立谷沢川の自然

はじめに

立谷沢川は、昔は土石流や洪水の多い川でした。また、立谷沢川沿いや狩川地区はたびたび、水不足になることもありました。そのため、土石流や洪水がおきないように、また、適度に雨が降るように龍神様や水神様にお祈りする文化が育っています。

今は、堤防がつくられ、水道がひかれ、車をつかってどこへでも早く行ける、安全で便利な世の中になりました。それとともに昔の人の苦勞や、水のこわさやありがたさが忘れられようとしています。みなさんにはこの本を読んで、立川町の文化や風土、自然を見直してもらい、祖先が苦勞して育ててきた立川町のすばらしさに気づいてもらいたいと考えています。

平成15年4月

立川町教育委員会
教育長 正木尚文



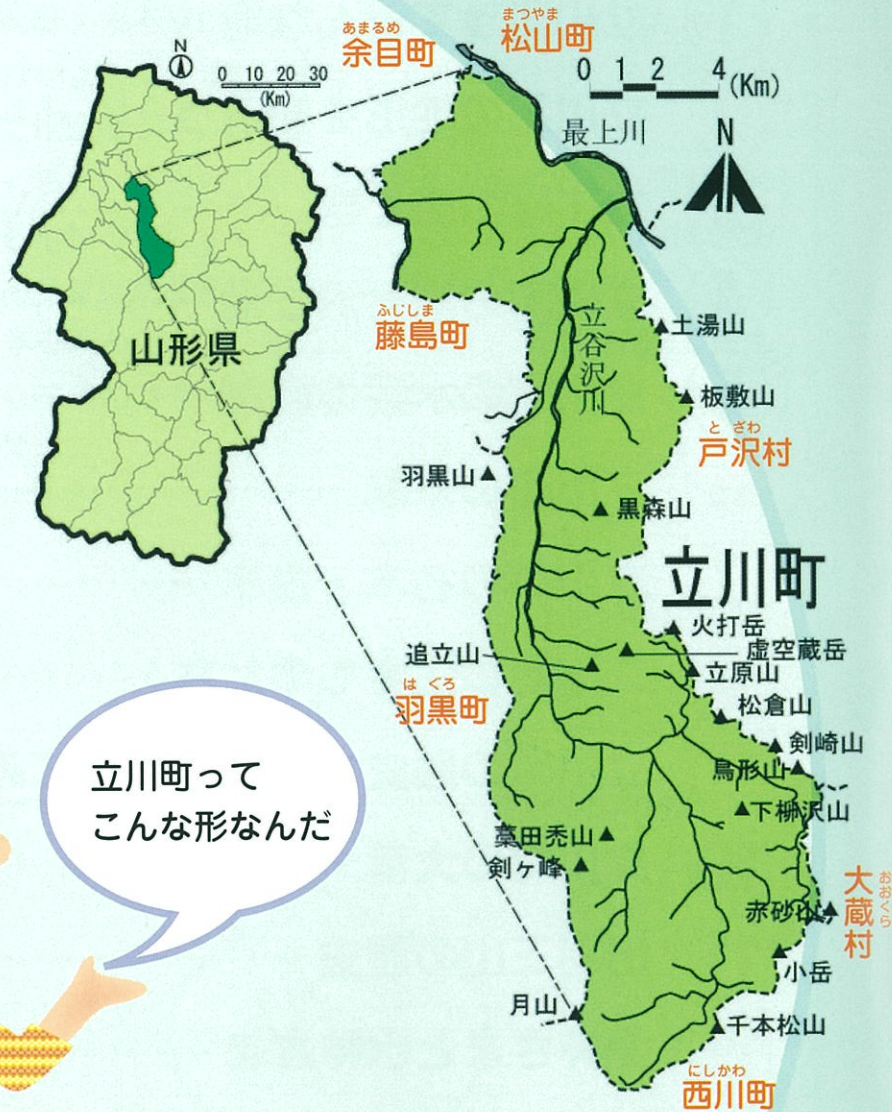
私が案内します！

新庄河川事務所 砂防キャラクター「さき（砂希）ちゃん」

目次

①	立川町ってどんな町	1
②	立川町の地形を知ろう	3
③	立川町の山と岩	5
④	立川町の川と沢と池	7
⑤	立川町の水辺の自然	9
⑥	立川町の気象	11
⑦	立川町の名木・古木	13
⑧	立川町の生きものたち	15
⑨	立川町の歴史・文化を調べてみよう	17
⑩	立川町の大昔	21
⑪	出羽三山の歴史	23
⑫	龍神さまと水神さま	25
⑬	民話と伝説	27
	立川三宝物語	29
⑭	立谷沢川の人と家や自然を守る砂防事業	33
⑮	立谷沢川の砂防施設	35

1 立川町ってどんな町



立川町って
こんな形なんだ

とう けい 東 経 : 134度58時04分
 せく 緯 北 緯 : 38度47時01分
 じん 口 人 口 : 約7000人
 せたいすう 世帯数 : 約1780世帯
 (平成12年 国勢調査より)



立川町の特徴・・・

立川町は、山形県の北西、庄内平野の東南にある町です。月山から出ている立谷沢川と日本三大急流の一つの最上川が流れている山の中の町です。北は松山町、東は山を境に戸沢村、大蔵村があり、南は西川町、西は羽黒町、藤島町と余目町があります。

立川町のシンボル・・・



町の木 イチョウ

三ヶ沢霊輝院の乳イチョウほか多くのイチョウがあります。厳しい自然の中で、新しい町づくりの息吹が感じられ、大きく伸びる木です。



町の花 ヤマユリ

立川町の山林に多く自生しています。花言葉「純潔」とその芳香は町民の心を洗い、安らぎを与えてくれます。

立川町の歴史・・・

昭和29年、狩川町、清川村、立谷沢村の1町2ヶ村が合併してできた町です。町の名前はそれぞれの「立」、「川」を取って名付けられました。町名は合併各町村の旧名を1字ずつ残すことで、長く住民に親しまれるようにとつけられました。立谷沢川・立谷沢村の「立」、狩川町・清川村の「川」を取っています。立川町の「立」は飛び立つことであり、新しい旅立ち、新しい発足を意味しています。また、「立」は「たつ」とも読み、豎（たて）真直になれることであり、たちあがる、おきあがる、定まるという意味があります。川は水が集まって流れるところであり、狩川・清川・立谷沢川の水が集まって立川となり、住民が協力しあって永久に平和に発展することへの願いが込められています。

2

立川町の地形を知ろう

たちやざわ じょうりゅう たちやざわ にごりさわ たまがわ ふく ぜん
立谷沢の上流は立谷沢川、濁沢、玉川を含めると全
体的に地すべりやがけ崩れが多くなっています。

その理由は、立谷沢周辺は、火山活動の影響でもろ
くなった地層や堆積物でできた地層が多いからです。

にごりさわ じ くず はっせい
このために濁沢の近くは地すべりやがけ崩れがたくさん発生しています。
もう一つの理由に雪解け水が多かったり、夏に雨が強く降ったり
して、地盤が緩くなっていることがあげられます。

狩川 (かりかわ)
狩河とも書き「かりかわ」
ともよびました。

清川 (きよかわ)
清河とも書きました。地名
は立谷沢川を古くは清川と
称したことに由来します。

坂敷山 (629.6m)

羽黒山 (378m)

桑田 (くわだ)
桑木新田、「くわのきた」と
もよびました。明治11年東
田川郡になり、同22年十六
合村の大字となりました。

千本杉 (せんほんすぎ)
明治11年東田川郡に属し、同22年
十六合村の大字となりました。

肝煎 (きもいり)
立谷沢川の中流から下流沿
岸に位置しています。地名
は肝煎が地内に居住したこ
とに由来します。

科沢 (しなざわ)
地名の由来については、篠の生
い茂った沢(篠沢)が、砂の多い
沢(砂沢)の読み方に別の漢字
をあてたものと考えられます。

火打岳 (1033m)

虚空蔵岳 (1690.3m)

三ヶ沢 (みかさわ)
当村の按察使(あぜち)沢は、もと奥州管領新波兼頼
が陣をかまえ、蝦夷と戦った所といわれます。

添津 (そえつ)
明治11年東田川郡に属し、同22年
狩川村の大字となりました。

赤砂山 (1015m)

小岳 (1225.7m)

下柳沢山 (1178.4m)

立川町

藁田禿山 (1217.1m)

月山 (1984m)

剣ヶ峰 (1402.7m)

立谷沢 (たちやざわ)
江戸期には肝煎村の名前で
立谷沢川の中流から下流沿
岸の地を指しましたが、明
治9年以降立谷沢川上流沿
岸の地を指しています。

あなたの住んでいる
地名の由来を
聞いてみましょう



3

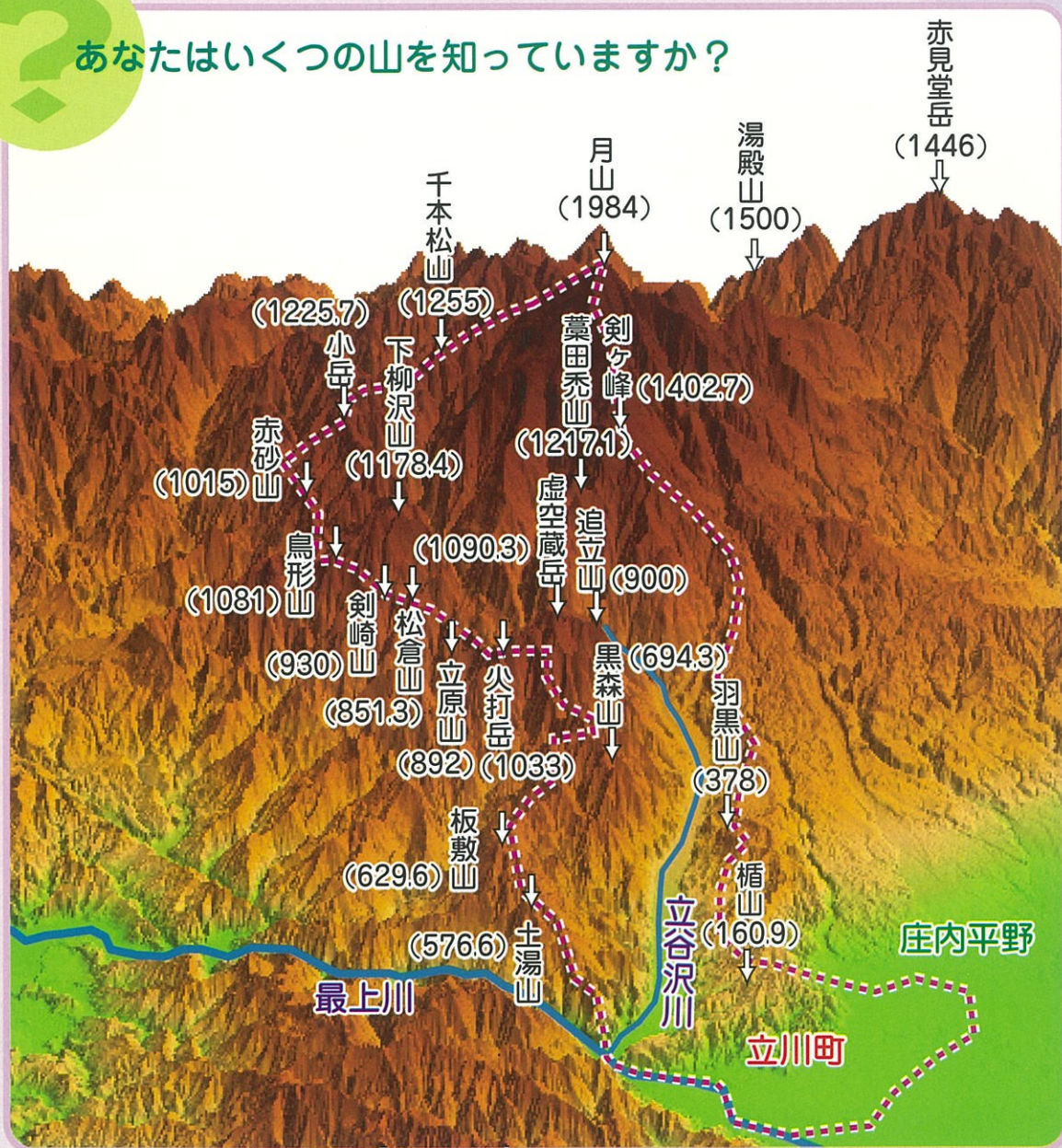
立川町の山と岩

立川町をとりかこむ山・・・

立川町は、南北に細長い形をしていて、その周りを山々が取り囲んでいます。最高峰は月山の1984mで、1000mを超える山々が連なっています。



あなたはいくつの山を知っていますか？



町内にある不思議な巨石・・・

瀬場地区のたんぼの中には大きな巨石がいくつもあります。



巨石が集まっている場所！！

なぜこんなところにこんなに大きな岩があるんだろう・・・。

- どうしてここにきたのか考えてみよう
- いくつあるか数えてみよう
- それぞれの巨石の特徴を調べてみよう
- 巨石にあだ名をつけてみよう

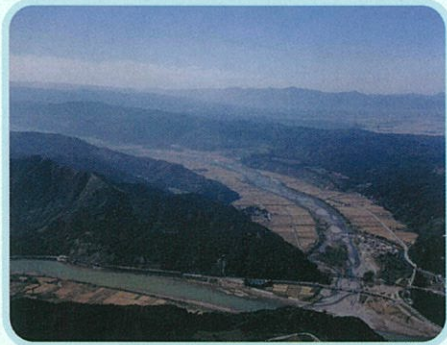


4

立川町の川と沢と池

立谷沢川には113本の沢と、4つの池、
4つの湿原があります。

立川町には
こんなにたくさんの
沢があるのね。
いくつ読めるかな？



最上川と立谷沢川の合流点



立谷沢川

立谷沢川
 月山山頂南東斜面、標高約1400メートル付近の清川根を水源とする
 本沢が主流となって、北流します。左岸の濁沢、右岸の赤沢川などを合流
 して、やや西に向きを変え、左岸の松沢や瀬場集落の南端で玉川と合流
 します。さらに川は北流し、両岸に多数の河川や沢を合わせ、清川集落
 の東端、標高約20m地点で最上川に注ぐ一級河川です。

最上川
 立川町の北部、松山町との境約7.6kmを流れる最上川は、山形県南
 部福島県境、吾妻山に源を発し、山形県を貫流して、酒田市で日本海
 に注ぐ一級河川です。本流の長さ約224km、その間に約410に及ぶ大
 小支流と合流します。流域面積は約7040km²で、山形県面積の約75%
 を占めます。

5

立川町の水辺の自然

たちやざわ
立谷沢川のように流れの速い川しかない立川町の生物にとって、池や沼、^{はや}湿原は大切なすみかとなります。



ニッコウキスゲ



イワカガミ



ニッコウキスゲ



みだ 弥陀
が はらちとうぐん ヶ原池塘群



ミネザクラ



チングルマ



ミヤマキンバイ



フメイ

何の花?
どの辺で見られるの?
いつ見られるの?



立川町にすんでいる生物や植物について調べてみましょう。

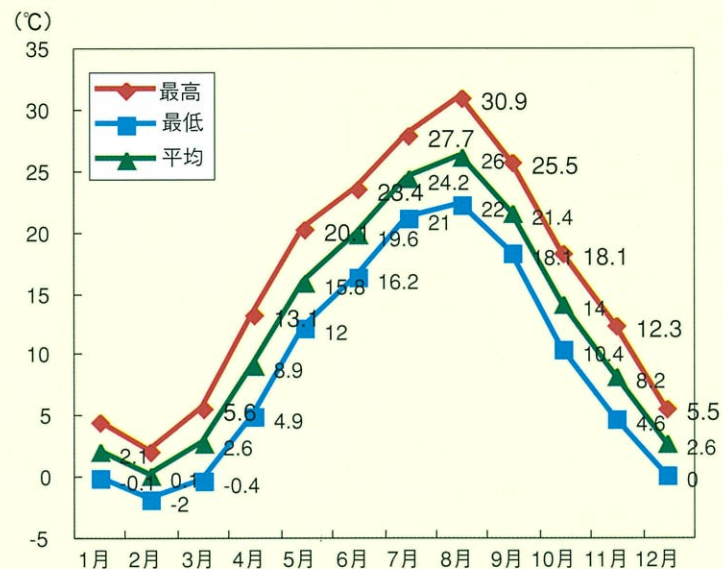
6

立川町の気象きしょう

立川町の気候・・・

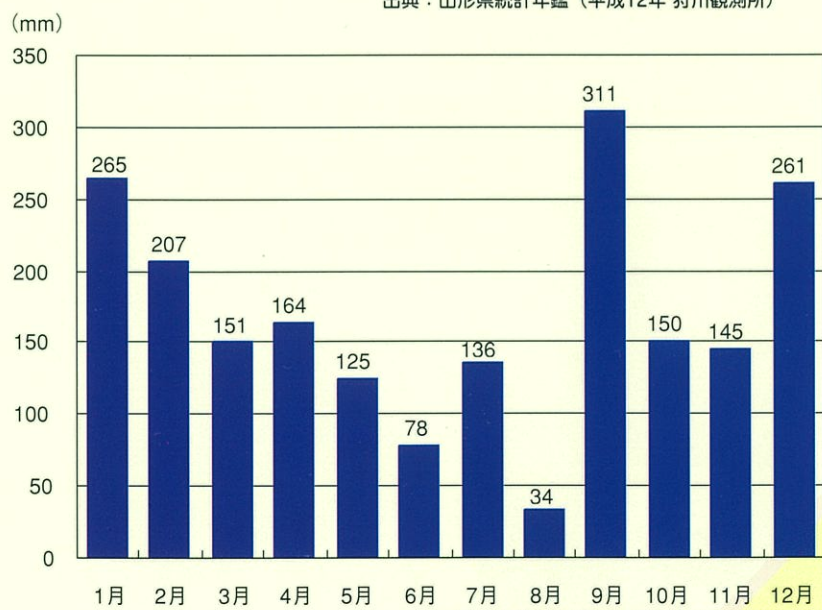
立川町は、4月から10月頃にかけて吹く東風の清川だしに代表されるように、全国的に珍しい強風地域となっています。年降水量は2,000mm前後で、積雪量は流域下流の清川で90cm、上流の月の沢で4mにも達します。

気温



出典：山形県統計年鑑（平成12年 狩川観測所）

降水量



出典：山形県統計年鑑（平成12年 狩川観測所）

立川町の風・・・

日本には、三大悪風と呼ばれる、人々の生活に様々な被害を与える風があります。その1つが立川町に吹く「清川だし」です。

清川だしは、4月～10月にかけて新庄盆地にたまった冷気がおろしとなり、庄内平野に吹き出す風です。

日本三大悪風位置図



だしは、吹き出す、または沖へ船を出すという意味です。

① 清川だし (峡谷の一番上で集まった風が庄内平野に吹き下ろす風)

② 立谷沢だし は4つのだしをひっくるめた名前(生線沢だし、板敷だし、水沢だし、前の川だし)

清川だし、生線沢だし、板敷だし、水沢だし、前の川だしはそれぞれの地域に吹いているので、その名前が付いています。清川だしが横綱だとすれば、大関が立谷沢だしであり、関脇が生線沢だし、板敷だし、水沢だし、前の川だしにあてはめることができます。



風については
ウィンドームで
調べてみましょう。

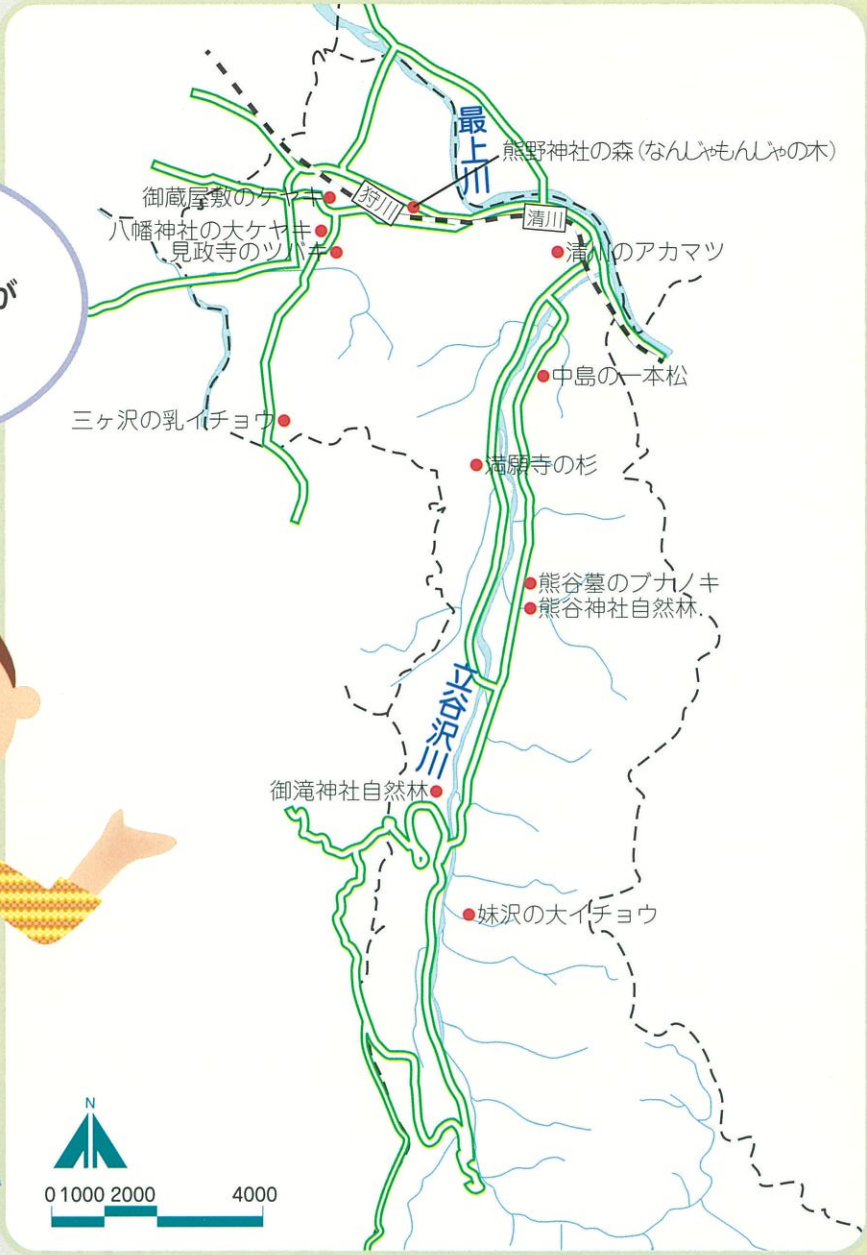


7

立川町の名木・古木



何本の木と
出会ったことが
ありますか？



立川町の名木位置図

みくらやしき 御蔵屋敷のケヤキ	狩川	きただてだいがく 北館大学がたてたといわれる御蔵屋敷の中でそびえたつ大ケヤキです。
はちまん 八幡神社の大ケヤキ	狩川	けんしてい もんぶしょうしていぶんがざい 県指定で、文部省指定文化財の大きな木です。現在は一部が腐っていますが、今も豊かな葉っぱを茂らせています。
けんせいじ 見政寺のツバキ	狩川	寒い土地でこんなに大きなツバキの木が育つのはとても珍しいことです。
みかさわ 三ヶ沢の乳イチョウ	狩川	しょうない ちち 庄内三大乳イチョウの一つです。大小たくさんの乳のような枝が垂れ下がり、土の中にまで達しています。
くまの 熊野神社のなんじゃもんじゃの木	狩川	くまの 熊野神社の中でも、ひときわ目立つエゾノキです。
きよかわ 清川のアカマツ 扇松	清川	きよかわ おうぎまつ 清川の扇松は山形県の中で最も背が高いアカマツで、平成の初め頃までは存在していました。
くまがいはか 熊谷墓のブナノキ	立谷沢	みき 幹の太さが4メートルもあり、その太さは庄内地方で一番です。
まんがんじ 満願寺の杉	立谷沢	太さはあまり太くないのですが、枝や葉っぱが茂っている様子がすばらしい木です。
いもうとさわ 妹沢の大イチョウ		ふしわらひでひら とくにこう 藤原秀衡の妹徳尼公ゆかりの大イチョウで、その太さも庄内一といわれています。
なかしま 中島の一本松		ふたかか ふるまつ 二抱えもある大きな古松で、村人たちは一本松といって村の名物になっています。
くまの 熊野神社の森		しょうないち ほうへいや ぶ しぜん すがた ゆいいつ 庄内地方平野部の自然の姿を残す唯一の場所です。有名ななんじゃもんじゃの木もあります。
くまの 熊野神社の自然林		ひのきさわ しぜんりん 檜沢山の東にある自然林で、ブナ、ケヤキ、スギ、ヒノキ、アスナロなどの木があります。
みたき 御滝神社の自然林		上の方にブナやチシマザサ、下の方にケヤキやアカシデが茂っています。



9

立川町の歴史・文化を

調べてみよう

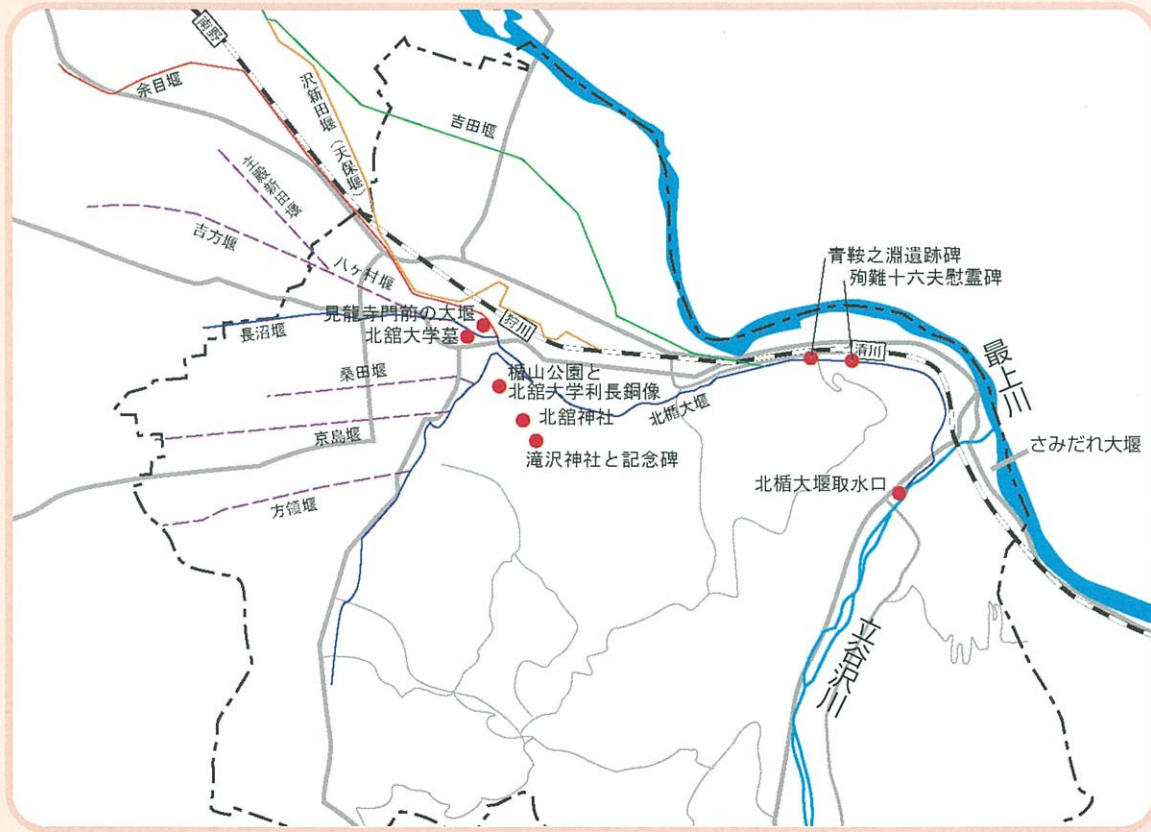
立川町のえらい人・・・

立川町のえらい人として、「北館大学」と「清河八郎」がいます。



庄内平野一帯を潤した北館大学

慶長17年(1612)3月5日、狩川城主の北館大学利長公は立谷沢川から水を取る北楯大堰を作りはじめました。大変な苦勞をしましたが、約5ヶ月後の7月21日に完成しました。



1 北館神社

大正7年に八幡神社から楯山公園に移転して建てられ、昭和47年に現在の地に新築されています。

2 楯山公園と北館大学利長銅像

楯山公園には杖をつき、最上義光からもらった頭巾をかぶった北館大学利長の銅像が建っています。

3 見龍寺門前の大堰

北館大学が下流をうるおすために水を通す許可をもらったといわれている場所です。

4 北館大学墓

北館大学は78才で亡くなり見龍寺に葬られました。

5 滝沢神社と記念碑

滝沢神社は北館大学が大堰が完成することを願って滝に祈った場所です。

6 青靱之淵遺跡碑

大学が青靱摺の鞍を投げ込んで水の勢いを止めたという伝説が伝わっています。

7 殉難十六夫慰霊碑

狩川山を崩して堰を作る工事の最中に山くずれがありました。16人が亡くなり、今は慰霊塔が建っています。

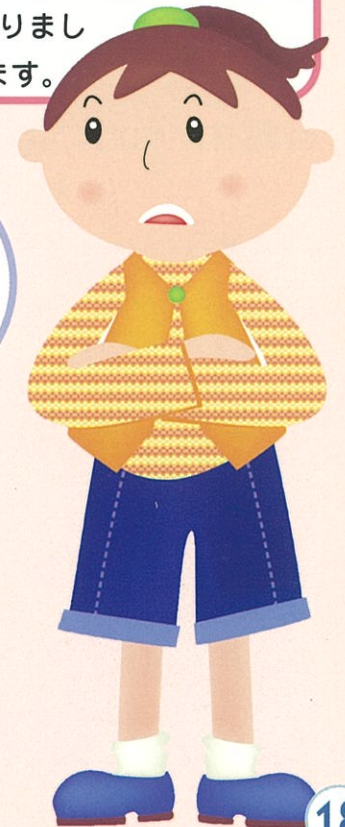
8 北楯大堰取水口

昔は小出沢の近くに取水口がありましたが、今は生綴沢橋下流にあります。



北館大学については、歴史民俗資料館でさらに詳しく調べてみよう

北楯大堰土砂吐





きよかわはちろう
清河八郎

18歳の時に江戸に出て、学問と剣を学びました。近畿、四国、九州を旅していくうちに熱心な尊皇攘夷論者になっていきました。その後、浪士隊を結成して尊皇攘夷をやり遂げようとしたのですが、幕府に止められ暗殺されました。



ぼ しん えき
戊辰の役

薩長両藩を中心とする政府軍と関東・東北諸藩を中心とする反政府軍との間に戦われた戊辰戦争は清川も戦場になりました。立谷沢川を挟んで腹巻岩と御殿林が戦地になりました。



きよかわ
● 清河神社

清河八郎は明治元年に京都に祀られた後に明治24年に靖国神社に合祀されました。その後昭和8年に清河神社に祀られることになりました。

きよかわはちろうどうぞう ● 清河八郎銅像 ● 清河八郎記念館 ● 清河正明碑

昭和37年、清河八郎が死んで百年記念事業の一つとして、清河八郎の遺品の収集保管と偉業を讃えるために造られました。

きよかわはちろう はか
● 清河八郎の墓

江戸で暗殺された清河八郎の遺体は小石川の伝通院に葬られましたが、明治2年に清川の歓喜寺に分骨され、お墓が建てられました。

ぼ しん えき こせん の し の しせき
戊辰の役 of 古戦を偲ぶ五史跡

- 御殿林
- 庄内軍墳墓
- 正岡子規句碑
- 腹巻岩
- 官軍墳墓

きよかわはちろう
清河八郎については
きよかわはちろう きねん かん
清河八郎記念館に
行って調べてみよう



清河八郎銅像



清河八郎の墓



清河神社



清河八郎記念館

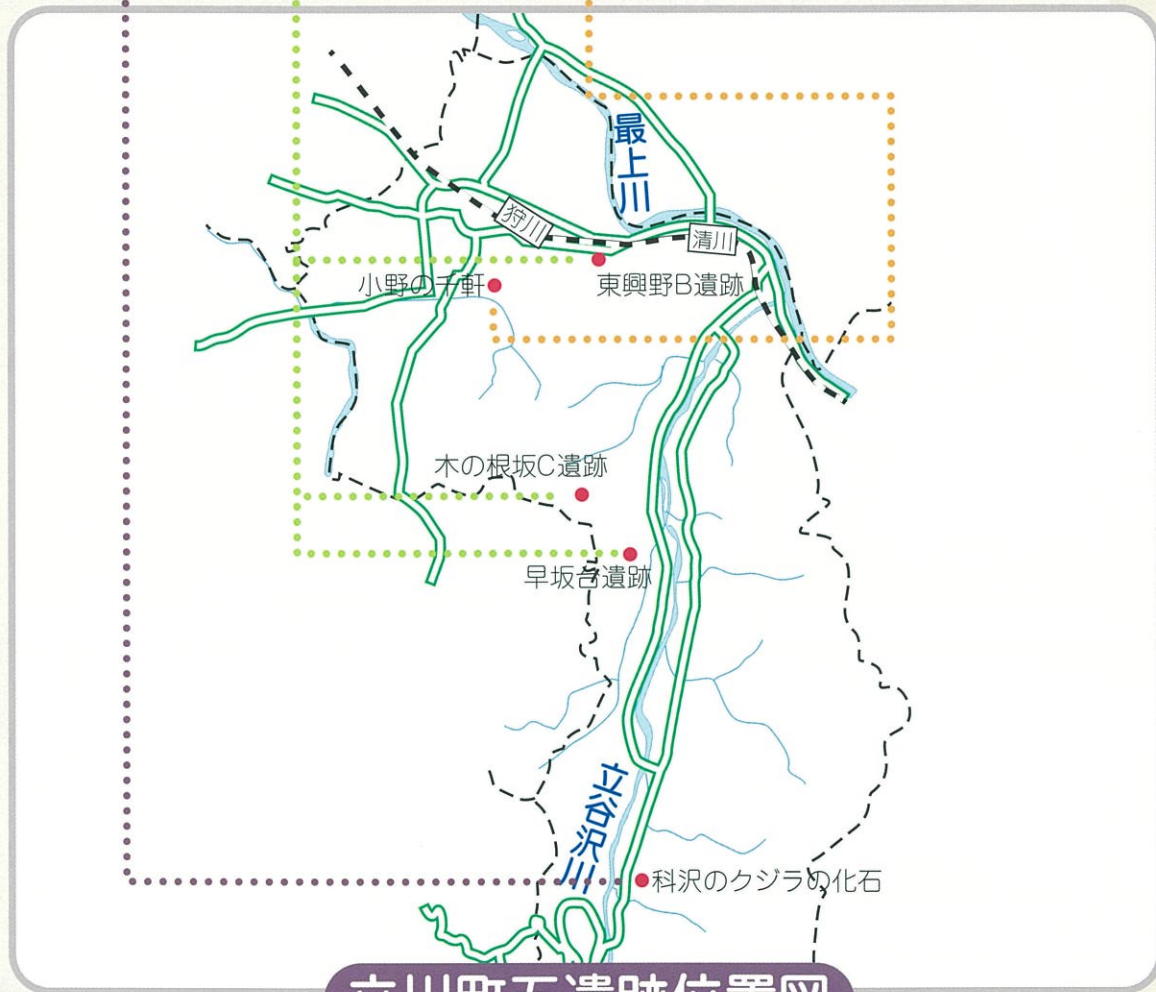


10 立川町の大昔

3000万年前

5000年前

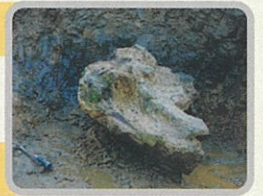
1000年前



立川町五遺跡位置図

1 科沢のクジラの化石—2~300万年前

立谷沢川の科沢からクジラの化石が出土しています。



2 木の根坂C遺跡 1万5千~2万年前

立谷沢川の左岸の丘で発見されました。旧石器時代の遺跡で、ナイフ形石器や搔器が見つかりました。およそ15000年から20000年も前の石器と考えられています。立川町で一番古い文化です。

3 早坂台遺跡—縄文時代

立川町で一番大きい縄文時代の遺跡です。打製石器や磨製石器、栗やどんぐりを調理する石器や石棒や石剣が発見されました。棒や剣は、戦うために作られたのではなく、祭祀や呪術に用いられたものです。

4 東興野B遺跡—縄文時代

東興野B遺跡は、狩川の大堰台にありました。発見されたものは、縄文時代の竪穴式住居があった跡や縄文式土器と72個の石器です。

5 小野の千軒—奈良時代

狩川・笠山地内のグラウンド敷地から非常にたくさんの土師器が出土しました。これは奈良時代末期のもので、「小野の千軒」と言い伝えられるほどの大集落となった、といわれています。しかし、嘉承3年(850)に出羽国を大地震と大津波が襲い、栄えていた「小野の千軒」もほとんど全滅してしまっただといわれています。

立川町には大昔から人が住んでいたのね



出羽三山は、月山、羽黒山、湯殿山を表す名前で、昔から修験の山として知られています。出羽神社は1400年前の第32代崇峻天皇の皇子、蜂子皇子が羽黒山頂に祠を建てたのが始まりです。そして月山、湯殿山にも祠を建てました。その後、僧が修験をする所として有名になりました。

初代の出羽三山は「月山・羽黒山・葉山」でした。やがて葉山信仰がすたれ、代わりに鳥海山が入ることになりました。しかし、月山よりも高く、1つだけ離れていることから湯殿山が選ばれ、現在の「月山・羽黒山・湯殿山」になりました。

現在の出羽三山



出羽三山の歴史

1 出羽神社

約1400年前、第32代崇峻天皇の皇子である蜂子皇子が三本足の霊鳥に導かれ、羽黒山に登り、山頂に祠を建てたのが始まりです。立谷沢の鉢子はこの皇子の名前が元とされています。

2 月山神社

月山山頂にあります。とても古い歴史を持ち、朝廷の信仰も厚かったといわれます。月山からは立谷沢川が流れ、みたらしの川ともいわれます。

3 湯殿山神社

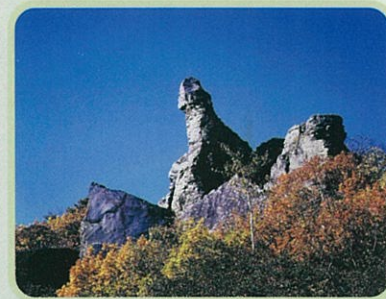
御神体は茶褐色の大きな岩です。御神体は撮影は禁止で、参拝する時には入口でおはらいをしなくてははいけません。今でも神秘のヴェールに包まれている神社です。



出羽三山神社



羽黒山五重塔



月山のご神体「東普墮落」



出羽三山での修行はキビシイ...

12

龍神さまと水神さま

立谷沢川のあちこちに龍神・水神の石碑が数多く見られます。龍は中国の想像上の霊獣です。龍神・水神は水を司る神で、水神は特に飲料水・灌漑用水を司り、火災から守る神として知られています。

昔から洪水が多かったこの地域の、「人事を尽くしてもどうにもならない、もう龍神の加護を待つより仕方がない」という願いがこめられています。

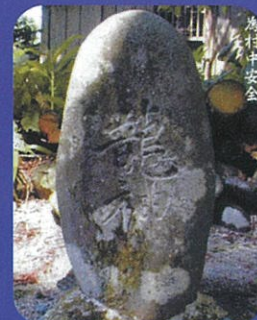
さあ、立川町で龍さがしをしてみましょう！



立川町龍神水神位置図

立谷沢川周辺で一番古い龍神供養塔は、鉢子にあるもので、天明5年（1785）に建立されました。大洪水で数年間凶作が続き祈ったものだとされています。いかに立谷沢川の洪水・氾濫が多く地域住民を苦しめたかがわかります。

龍神碑

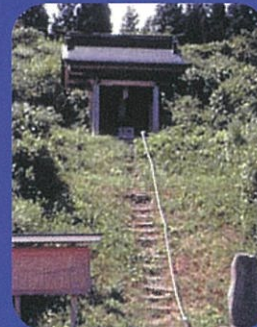
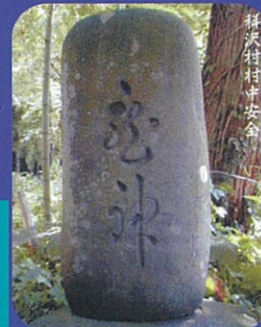


1 中島龍神供養塔

2 興屋龍神碑

3 中村龍神供養塔

4 鉢子龍神供養塔

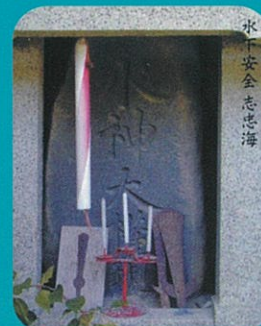


5 科沢龍神碑

6 工藤沢龍神供養塔

7 北月山龍神観音堂

水神碑



8 出川原水神大神

9 南町水神大権現

10 大中島水神

11 瀬場水神碑

阿古屋の松と千貫長者

京都の豪族の女中だった阿古屋は、出羽国の雁河（狩川）で炭焼藤吾に嫁入するという初夢を見ました。阿古屋は苦勞の末、狩川で炭焼藤吾と結婚しました。旅の時に使った杖を刺すと、阿古屋の松になりました。ある日、阿古屋は泉の水底に黄金を発見し、お金持ちになり千貫長者と呼ばれるようになりました。



冷岩寺の母呂美地藏

酒屋に毎晩、酒を買いに来る坊主がいました。ある晩に店の者が坊主の後をつけていくと、冷岩寺の門前で姿が見えなくなりました。徳利は門前の石地藏の側にあったので、お地藏様のしわざと知り、お酒を供えることにしました。すると、その年に出来た酒がとてもおいしかったので、毎年お酒をお供えすることになりました。



蜂子皇子伝説

立谷沢の鉢子という地名は、羽黒山神社を造った蜂子皇子の名前にちなんでいわれています。その近くにある大地はスベノと呼ばれていて、漢字は皇野と書き、蜂子皇子を葬った場所とされています。



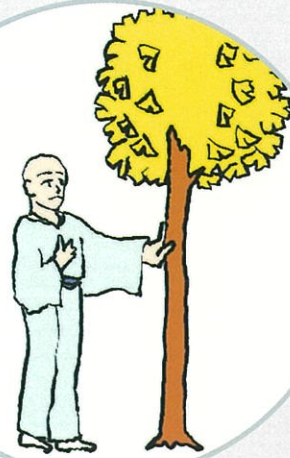
位置図



他の物語や伝説もさがしてみよう

徳尼伝説

徳尼さまは、藤原秀衡の妹で、自分の夫が亡くなるおとと髪をおろして尼になりました。藤原氏が滅亡した後に、妹沢の奥深くに隠れました。しかし、敵であった源頼朝が羽黒地区の中に神社を建てたので、人の出入りが多くなり徳尼さまは見つかると思って、酒田に逃げました。そして建保5年（1217）5月15日、90歳で亡くなりました。



源義経伝説

源義経は、武蔵坊弁慶等の一行16人と京都を出発し、「安宅の関」を過ぎて清川に着きました。そして御諸皇子神社で一夜を明かし、ここで舞を舞って安全を願い、翌日最上川を舟で上ったといわれています。



立川三宝物語

創作物語



昔、立川の里に黒龍、青龍、赤龍が棲んでいました。三匹の龍はたいへんな暴れん坊でした。

ある年、稲穂が色づきはじめるころ、三匹の龍が大暴れを始めました。黒龍が立谷沢の上流の大地を崩しはじめると、青龍も大雨を降らせはじめました。すると、あ

ちこちの沢で土石流が発生して立谷沢川に流れ込むと、いっきに下流の集落や田んぼを襲いました。追い打ちをかけるように、赤龍も大風を起こし、残っていた稲を吹き飛ばし、家々をなぎ倒してしまいました。このように、立川の里はたびたび三匹の龍によって災害にあっていました。

村に災害をもたらす三匹の龍を退治するために、三人が立ち上がりました。清川に住む清川太郎、立谷沢に住む立谷沢次郎、狩川に住む狩川三郎です。

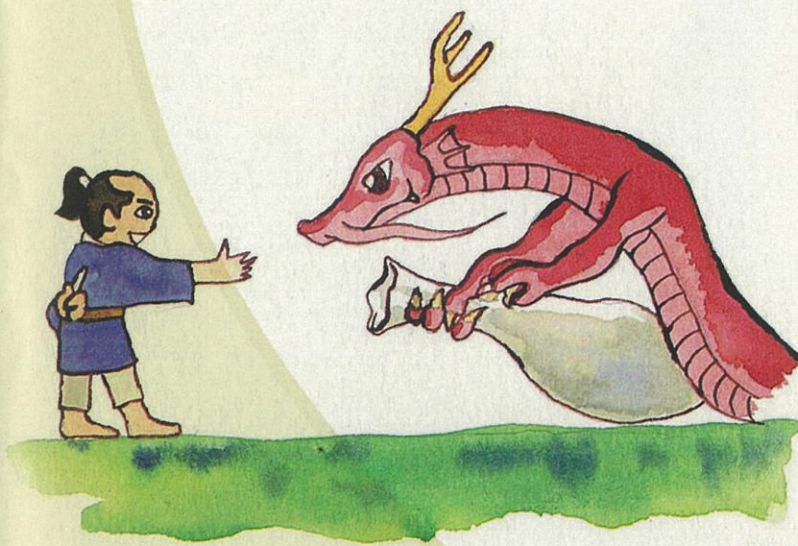
三人は龍退治の成功を羽黒神社に祈ることにしました。まず、羽黒山権現に願をかけ、立谷沢川で身を清め、御諸皇子神社で羽黒山を遥拝して羽黒山へ向かいました。三人が羽黒山で龍退治の成功を祈り続けると、権現様が現れて言いました。「三匹の龍退治は賢さだけでは勝つことはできません。強さだけでもだめです。やさしさが備わらなくてはなりません。」三人は権現様の言葉をしっかりと覚えて、龍退治に向かいました。

清川太郎は赤龍の棲む立谷沢下流の御殿林に行き、林の中に向かって言いました。「赤龍さん、ぼくに風を起こす方法を教えてください。」

赤龍は昼寝の最中だったので、きげんの悪そうな顔で下りてきました。「何だ。うるさい奴だな。」「ぼくも赤龍さんの様に大風を起こす名人になりたいのです。」名人といわれて赤龍は喜びました。そして風袋を取り出しながら言いました。「風袋に風をつめこんで吹き出させるんだ。」

風はヒューッと鳴ってあたりの木々を大きく揺すりました。太郎はびっくりしましたが、何食わぬ顔で言いました。「なんだ、そよ風じゃありませんか。もっと強い風は起こせないのですか。」赤龍は怒って言いました。「おまえなんか、清川だしの力で吹き飛ばしてやる。」そして、風袋がはちきれそうなほど風をつめこみました。

この機会を狙っていた太郎は、針を風袋に突き刺しました。風袋は、



大きな音とともに破裂して、赤龍を立谷沢川の対岸の腹巻岩まで吹き飛ばしました。赤龍は人の知恵に負けを認めました。

立谷沢次郎は青龍の棲む長者沼へ行きました。そして沼に向かっ

てい言いました。「やい青龍、ぼくと勝負しろ！」すると沼から青龍が顔を出して言いました。「ちっぽけな小僧がオレ様と勝負とは片腹痛い。とっとと帰れ。」次郎は勇気を振り絞り、青龍を見返して言いました。「ぼくが恐いのか。弱虫龍め。」

青龍はちょっと怒って沼から出てきて言いました。「元気のいい小僧だ。だがあまりばかにするとお前なんぞ一のみにしてしまうぞ。」そして長い体で次郎を取り囲み、真っ赤な舌で次郎の顔をなめました。

この機会を狙っていた次郎は、力を込めて剣を青龍の目に突き刺しました。不意をつかれた青龍は、ギャーッという声とともに長者沼へ逃げ込んでしまいました。青龍は人の力に負けを認めました。

狩川三郎は黒龍の棲む立谷沢川上流の濁沢へ行きました。そして、

地面に向かって言いました。「おーい黒龍。話があるから出てきておくれ。」すると地面が割れて中から黒龍が出てきて言いました。「何の用だ。つまらない話だと生き埋めにしてしまうぞ。」

三郎は親しみを込めて言いました。「今日はおまえを村祭りに招待するため



黒龍は驚き、そして涙を流しながら言いました。「おれはいつも地底でひとりぼっちでさびしかったんだ。友達になってくれるのなら、もう暴れないよ。」黒龍は人のやさしきで心を改めました。

こうして三匹の龍は心を改め人間と共に助け合って生きることになりました。

赤龍は相変わらず風を起こしていますが、その風で風車を回し、発電に役立っています。

青龍は立谷沢川に清らかな水を流し、下流の水田を潤しています。

黒龍は山が崩れないように見張り、下流にはおいしいお米が取れるよう滋養豊かな土をつくっています。

立川町が土砂や水の災害もなく、また亀の尾米の産地になったのは、

青龍と黒龍のおかげなのです。

こうして三匹の龍は、立川町の大切な三つの宝の生みの親となり町の人々に感謝され、龍神様として祀られるようになりました。

おわり

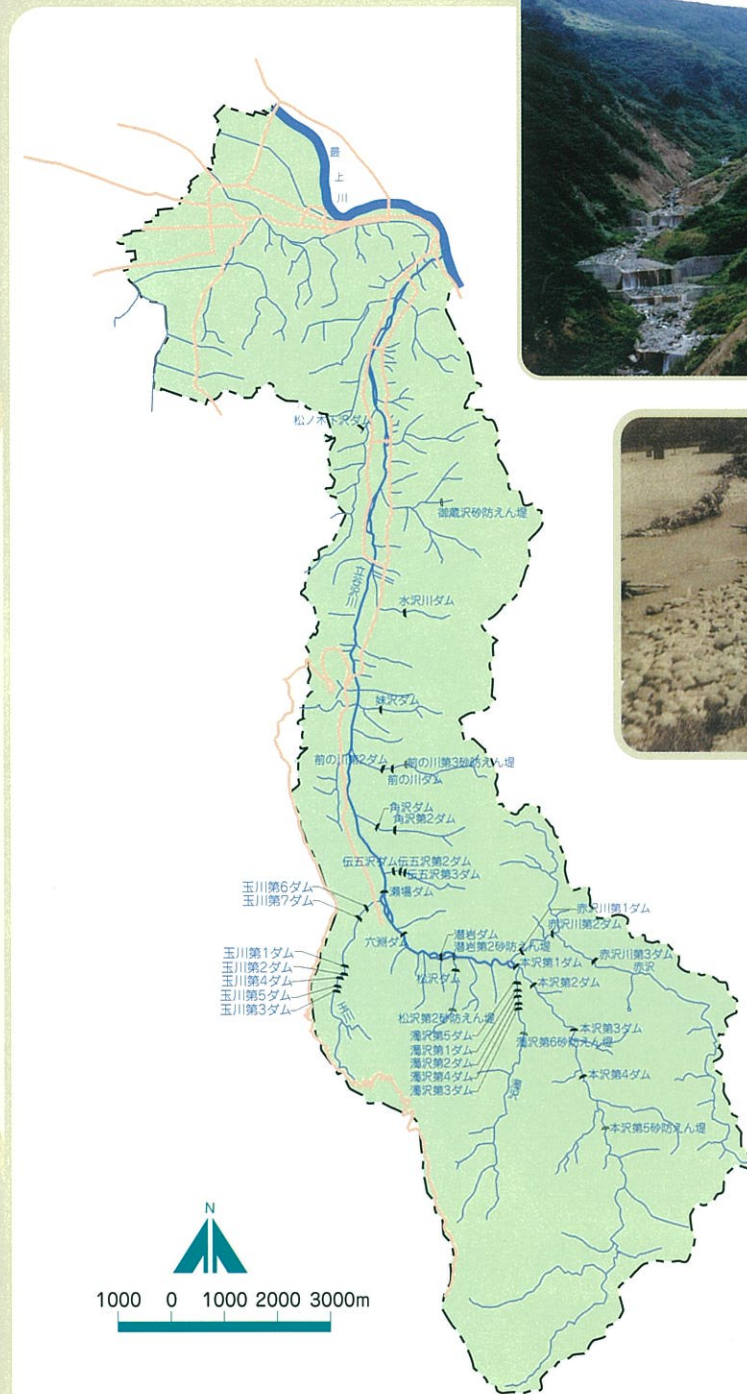


さ ぼ う し ぎ ょ う 立川町の砂防事業・・・

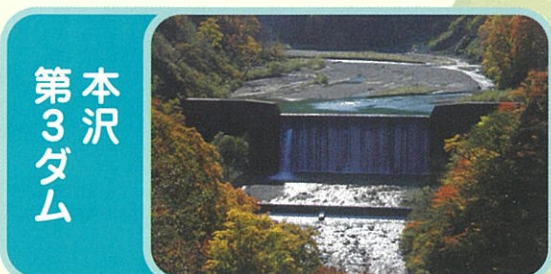
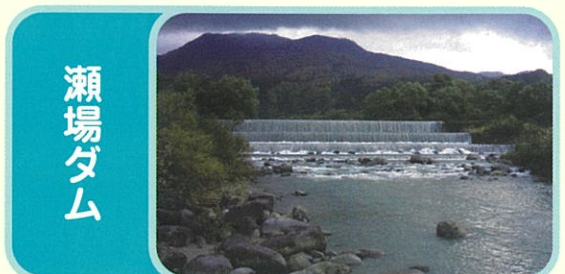
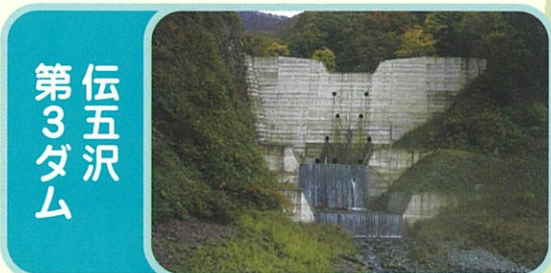
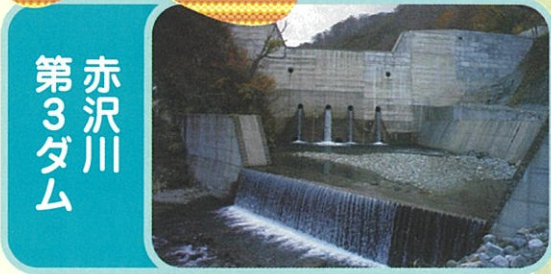
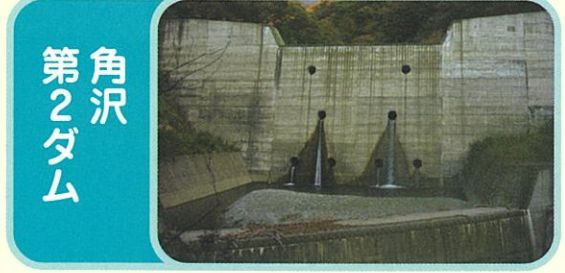
やまがたけん 山形県を代表する 霊峰月山は、美しさとはうらはらに、がけ崩れ や地すべりの多発地帯となっています。こうした事から60年以上もの間、立谷沢川にはそれらを防ぐために砂防えん堤(砂防ダム)が作られてきました。今までに完成した砂防えん堤(砂防ダム)は全部で42基にもなり、流れ落ちる土砂を調節しています。



さ ぼ う 砂防のことなら
さ ぼ う し り ょ う か ん 砂防資料館で
調べてみましょう



砂防施設位置図



おしまいに

この本を読んでみてどうでしたか？
この本がきっかけになって、もっといろいろなことに興味をもってもらい、自分たちでいろいろなことを調べてくれたらいいなあとおもっています。

図書館や資料館で本を見るだけではなく、おとうさんやおかあさん、おじいちゃんやおばあちゃん、となりの人、しんせきの人など、いろいろな人のお話を聞いてみましょう。

もし、この本に載っていないおもしろいお話があったら、お手紙か砂防資料館を直接訪れて教えてください。感想文や感想画もお待ちしています。

平成15年4月
編集者一同

これで私の案内はおしまい
また会おうね！



発行 ● 平成15年4月
企画・発行 ● 国土交通省 東北地方整備局
新庄河川事務所
立川町・立川町教育委員会
制作 ● (財) 土木研究センター 風土工学研究所

ご意見、ご感想がありましたらこちらまで

国土交通省 東北地方整備局
新庄河川事務所 立谷沢川砂防出張所
〒999-6601 山形県東田川郡立川町大字狩川字堅田20-23
TEL (0234)56-2050 FAX (0234)56-2081
新庄河川事務所インターネットホームページアドレス
<http://www.thr.mlit.go.jp/shinjou>